

# 現 職 研 修 ( 主 題 研 究 )

## 1 今年度の研究主題

### かかわり合い、つながり合う子の育成

- 言語力を育てる学習活動を通して -

## 2 これまでの研究の経緯と主題設定の理由

本校の研究主題は、平成17年度から『お互いを尊重し合い、認め合う人間関係づくりを目指して』を掲げ、生活科・総合的な学習と道徳、特別活動を関連させながら人権教育に取り組んできた。特別活動においても「ありがとう週間」を中心に、縦割り清掃、ペア給食など異年齢交流活動も盛んで、本研究を通して教育目標の具現化に迫ってきた。19年度からは、道徳を中心とした研究を行い、発問や終末の在り方の研究、紙芝居や写真の活用、新しい読み物資料の活用などにより、子供の心に響く道徳の授業を目指し実践してきた。

しかし、21年度の児童の実態から、自分の思いを伝え合い、聴き合うことが苦手な児童が多いことに気づき、『お互いに認め合い、よりよい人間関係づくりを目指して』を立ち上げ、すべての学習活動を通して実践してきた。22年度は、すべての学習活動の基盤は学級であることから、「あたたかい学級づくり」を基盤として「かかわり合い、学び合う」学習活動を中心に、異学年交流を生かし、よりよい人間関係づくりのできる子の育成に取り組んだ。

23年度は、22年度の人間関係づくりの研究を継承しながら、さらに授業に焦点を当てて深めていく。つまり「かかわり合い、学び合う」学習活動を深め、人と「つながる力」を身に付けた児童が、自ら人とつながろうとする「つながり合う」子を育成したいと考えた。また、「かかわり合い」を深める手だてとして、言語力を活用する。言語活動の充実、新学習指導要領の重点でもある。そこで、言語力を活用し、言語力を育てながら、授業におけるかかわり合いを深め、自ら他者とつながり合う子を育成したいと考え、本主題『かかわり合い、つながり合う子の育成 - 言語力を育てる学習活動を通して -』を設定した。

「かかわり合い、学び合う」学習活動を深めるために、「教科の特性を生かしたかかわり合い」と「自分の考えや思いをもったかかわり合い」の場を深める必要があると考える。本校では、教科の特性を生かしてかかわり合う場面で、自分の考えや思いをもってかかわり合う「かかわり合い」の場の設定を手だてとする授業づくりを進める。よって、学習場面に、『教科の特性を生かし、自分の考えや思いをもってかかわる「かかわり合い」の場』を設定する。そして、新学習指導要領が求める言語活動の充実を図るため、「かかわり合い」の場では、言語・非言語を含めた言語力を活用する。そのため、「かかわり合い」の前に、自分の思いを「書く」活動を取り入れる。また、学習後にもふりかえる場面を設定し、「書く」活動を取り入れて言語を活用する。

上記のような「かかわり合い」を深める授業づくりの実践を重ね、児童が他者と自らかかわろうとする「つながる力」を身に付けた「つながり合う子」の育成を目指す。

本校における「かかわり合い」とは、「思いをもって、お互いに働きかけ合うこと」とする。

## 3 研究の内容

### (1) 目指す子供像

#### かかわり合い、つながり合う子供

自分の考えや思いをもってかかわり合い、かかわり合いを深める子供  
友達の考えや思いを聴いたり、自分の考えや思いを適切に表現したりする子供  
よりよい人間関係を広げていく「つながる力」を身に付けた子供

### (2) 研究の仮説

自分の考えや思いを「書く」場を設定し、その後に「かかわり合い」の場を設定すれば、自分の考えや思いをもってかかわり合い、かかわり合いが深まるだろう。  
自分の考えや思いを「書く」場を設定し、その後に「かかわり合い」の場を設定すれば、友達の考えや思いを聴いたり、自分の考えや思いを適切に表現したりすることができるだろう。  
教科の特性を生かした「かかわり合い」の場を工夫すれば、かかわり合いが深まるだろう。  
学習後に、自分の考えや思いを「書く」場と「ふりかえり」の場を設定すれば、自己をふりかえり、自分の考えや思いを適切に表現できるようになるだろう。  
学校行事や日常の学習活動で、意図的・継続的に他者とかわる学習活動や異学年交流活動の場を設定すれば、よりよい人間関係を広げていく「つながる力」を身に付けることができるだろう。

### (3) 仮説の手だて

学習活動の基盤となるあたたかい学級をつくるための工夫  
構成的グループ・エンカウンター、グループワーク・トレーニング等  
学級づくりアンケートQ U  
自分の考えや思いを「書く」場の設定  
自分の考えや思いを記入するワークシートの活用と工夫  
授業における「かかわり合い」の場の設定  
各教科の特性に合わせた「かかわり合い」の場の工夫  
自分の考えや思いを記入するワークシートを活用した「かかわり合い」の場の工夫

授業における「ふりかえり」の場の設定  
 自分の考えや思いを記入するワークシートの活用と工夫  
 各教科の特性に合わせた「ふりかえり・わかちあい」の場の工夫  
 学校行事や日常の学習活動での意図的・継続的に他者とかわる異学年交流活動  
 学習場面での「かかわり合い」の場の継続、縦割り清掃、各種の児童会活動

- (4) 検証の手だて  
 児童の観察と記録；児童の授業中や日常生活の観察記録、児童の感想等の授業記録  
 学級の状態を確認する客観的な効果測定；学級づくりアンケートQU（6月・12月）  
 学力向上の検証；年度末学力テスト（1月） 次年度に生かす
- (5) 研究の方法  
 研究主題を推進するため、各研究推進委員を長とした三部会（言語力育成部、学級づくり部、交流活動部）と低・中・高学年部会を組織  
 三部会は、各授業者に対して、様々な授業アイデアや工夫等を助言・指導  
 低・中・高学年部会は、各授業者とともに指導案作成から当日の授業について協議

4 研究の計画

- (1) 年間（4月～3月）；あたたかい学級の基盤づくり  
 学級づくりのための学級活動（構成的エンカウンター等）の実践
- (2) 授業研究（6月・10月・12月）；講師招聘による授業づくり  
 6月；4年石川理恵教諭 10月；5年石川ひとみ教諭 12月；1年野々山智氏教諭
- (3) 研修；学級づくり（8月・12月） 授業づくり（6月・8月・10月・12月）
- (4) 部会  
 三部会については、5月に第1回、夏季休業中に第2回を実施  
 低・中・高学年部会については、各授業研究時に協議

5 研究の全体像



